

埼玉大学大学院 教育学研究科

Graduate School of Education Saitama University

2021 教職大学院案内



Contents

教育学研究科長メッセージ	1
教育学研究科の特徴、入学者受入方針、教育課程編成・実施の方針	2
修了認定・学位授与方針、教育学研究科の課程・入学定員・取得可能学位	3
専門職学位課程の特色	4～5
カリキュラムの構造	6～7
現職教員等の特例制度・特色ある取り組み	8
取得できる免許状	9
教員研究分野一覧	10～11
過去研究テーマ一覧	12

表紙建物

鳳翔閣について

1878(明治11)年に建築された埼玉県師範学校の校舎の呼び名である。バルコニー付き木造二階建ての洋風建築物で、現在の埼玉会館(さいたま市浦和区高砂3丁目)の場所にあった。呼び名の由来は、同年の明治天皇の東海北陸巡幸第一日目の行在所(あんざいしよ: 外出時の御所)として同校舎が選ばれた際に、太政大臣三条実美が命名したことによる。校舎のバルコニーには三条実美の揮毫による堅額「鳳翔閣」が掲げられた。

同校舎は1900(明治33)年まで埼玉県師範学校の校舎として、1901(明治34)年からは埼玉県女子師範学校校舎として使用されたのち、1925(大正14)年から埼玉県立埼玉図書館として使われた。1960(昭和35)年に解体されるまで、80年以上にわたり、埼玉県の文教のシンボルとして県民にも親しまれた。現在でも、一部が復元されたさいたま市立浦和博物館の建物や浦和レッズのエンブレムに「鳳翔閣」を見ることができる。

教育学研究科長メッセージ



教育学研究科長

薄井 俊二

埼玉大学の大学院教育学研究科は、令和3年度(2021年)に、大きく変革します。教職大学院へ一本化し、教育研究機能を強化していきます。

これまでの埼玉大学教職大学院では、学校学級経営力や特別支援教育の専門性の育成を主な目的としてきました。今回は、さらに10の教科教育、教育学、心理・教育実践学、学校保健、幼児教育を対象分野に加え、教員養成に関わるすべての領域をカバーするものへと質的に拡充します。また入学定員も20名から52名へと量的に拡充し、教育学部のすべての教員が教職大学院を担当します。

埼玉県に関わりの深い充実したスタッフを揃え、埼玉県内からの現職教員の院生も多く在籍しています。教職大学院での実習も埼玉県内の教育現場を対象とし、埼玉という地域の教育課題を共同で探究する「現代的・地域的教育課題の共同探求」を開講するなど、埼玉県ならではの教職大学院として再出発します。

新しい教職大学院での教育研究上のポイントは、以下の3点です。

複雑化し多様化する学校現場の問題解決のためには、組織として教育活動に取り組む体制作り積極的に参画し、自らの専門性を発揮しながら協働して問題解決をはかる資質能力が求められます。そこで「協働して取り組む共同探究力の育成」を強化します。すべての教科領域について、高水準の教科特有の知識・技能の習得や探求を基盤としながら、授業実践の向上を可能にする教材研究・授業研究の力量を高める必要があります。そこで「新しい時代の変化にも対応した高度な教材開発力・教科指導力の育成」を重視します。複雑な要素が絡む学校現場の問題状況に対し、学校教育の当事者の中核として問題解決を図ることのできる力量が求められています。そのためには「実践的な省察の充実」が欠かせません。

この3点の強化を中心にしたカリキュラムのもとで、教育に関わる様々な分野を専門とする研究者教員と豊かな現職経験を持つ実務家教員との協働での授業や、現職院生と学卒院生の共同学習など、多様な授業形態で学びを深めます。

埼玉大学教職大学院は、現代的・地域的教育課題に対応できる高度な力量を備えた教員の養成を目指します。

教育学研究科の特徴

本研究科は、既存の修士課程に加え、2016年度より専門職学位課程（教職大学院）を設置しました。2021年度から教職大学院に一本化し、新たなプログラムのもとスタートします。地域の教育ニーズを踏まえ、複雑化し多様化する学校現場の課題を解決し、学校改革の中核を担う高度な専門性を備えた教員の養成を目指します。

また、個々の能力を高めるだけでなく、豊かな人間性と社会性を育成するために専門性の垣根を越えて関係を構築できる教員を養成します。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

教育学研究科専門職学位課程では、次のような人に育つことを期待します。

教職実践専攻では、教員集団の中核として活躍する実践的探求力と課題解決力や、豊かな人間性・社会性を持つとともに、社会の変化とともに幅広く学び続ける教員となることが期待されています。

教育学研究科専門職学位課程では、次のような知識の修得、能力の獲得などを目指した教育を行います。

教職実践専攻では、高度な知識・技能に基づいて子どもたちが主体的・協働的に学ぶ授業をデザインし、実践できる力、子どもと彼らを取り巻く状況を深く理解した上で適切な学級経営を行える力、的確な課題把握に基づいて問題解決を図り、学校運営の中核的スクールリーダーとなりうるマネジメント力、実践と理論の往還に基づく深い省察を行い、実践研究につなげていく力などを育成します。

教育学研究科専門職学位課程では、次のような人が入学することを望んでいます。

教職実践専攻では、現代の教育課題を解決しようとする熱意を持ち、理論と実践を融合したカリキュラムによる学びによって研究力と実践力を培い、将来、教員集団の中核として活躍したいと考えている人が入学することを望んでいます。

教育学研究科専門職学位課程では、上記の目標に適性を持つ人を受け入れるために、次のような入学試験を実施します。

教職実践専攻の一般選抜及び指定校推薦特別選抜では、筆記試験、実技試験、口述試験、研究計画書等の総合審査によって判定します。同専攻の現職教員等特別選抜及び学部内推薦特別選抜では、口述試験、研究計画書、教育実践・研究業績書等の総合審査によって判定します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教職大学院（専門職学位課程）では、標準修業年限2年を目標にして、「修了認定・学位授与の方針」からなる知識の修得、資質・能力の獲得を可能とする教育課程を編成し、専門職学位課程教育プログラムに基づく体系的で質の高い教育を実施する。

そのために、専門職学位課程においては、総合教育高度化プログラムと教科教育高度化プログラムを開設する。総合教育高度化プログラムでは、学校構想サブプログラム、特別支援教育サブプログラム、学校保健サブプログラム、子ども共育サブプログラムの4つのサブプログラムを置く。教科教育高度化プログラムでは、10教科に対応する言語文化系、社会系、自然科学系、芸術系、身体文化系、生活創造系の6つのサブプログラムを置く。

専門職学位課程においては、共通科目として、教育経営の課題探求、教育課程の課題探求、教科指導の課題探求、生徒指導・教育相談の課題探求、学校と教職の課題探求と、併せて各サブプログラムの特色を踏まえた共通科目を開設し、この他実地研究と課題研究を課す。各サブプログラムでは、それぞれに必修または選択必修の基礎科目を開設し、さらに専門性を高めるための選択科目を開設する。この他、全体にかかる科目を開設する。

教職大学院（専門職学位課程）では、専修免許の取得を推奨し、教員として必要とされる高度な専門性と実践力を有するための教育課程を実施し、あわせて教員に求められる人間性・社会性を育成することを重視し、高度な実践研究力及び教員としての資質を有することを基準として、厳格に成績評価を行う。

修了認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

専門職学位課程（教職大学院）は、社会の変化とともに学び続け、教員集団の中核として活躍する実践的探究力と課題解決力をもった教員を育成することを教育目的とする。この教育目的を達成するために、以下の資質・能力を獲得したものに、「教職修士（専門職）」を授与する。

1 高度な知識・技能に基づいた授業実践力

子どもたちの個性に応じた学習支援に配慮しつつ、彼らが主体的・協働的に学ぶ授業をデザインし、実践できる高度な力

2 子ども理解に基づく学級経営力

子どもたちや子どもたちを取り巻く現状を多面的多角的に把握した上で、良好な人間関係を構築し、彼らの思いや願いを受けとめた適切な学級経営ができる高度な力

3 的確な課題把握に基づく教育経営・学校運営力

学校課題を的確に把握して問題解決をはかり、学校運営の中核的スクールリーダーとなりうる高度な組織マネジメント力

4 深い省察に基づく実践研究力

教職実践者として実践を深くリフレクションしながら、実践と理論を往還する高度な研究力

専門職学位課程では、明確な基準のもとで厳格に行われる成績評価に基づき、所定の教育課程を修めて、以上の知識を獲得し、求められる資質・能力を獲得したものに對し修了を認定する。

教育学研究科の課程・入学定員・取得可能学位

課程名	専攻名	プログラム名	サブプログラム名	取得可能学位
専門職学位課程 (52名)	教職実践専攻	総合教育高度化 プログラム	学校構想サブプログラム	教職修士 (専門職)
			特別支援教育サブプログラム	
			学校保健サブプログラム	
			子ども共育サブプログラム	
		教科教育高度化 プログラム	言語文化系教育サブプログラム	
			社会系教育サブプログラム	
			自然科学系教育サブプログラム	
			芸術系教育サブプログラム	
			身体文化系教育サブプログラム	
			生活創造系教育サブプログラム	

専門職学位課程の特色

教育学研究科専門職学位課程では、高度な専門性に裏打ちされた理論と実践の融合型カリキュラム、研究者教員と実務家教員とがタイアップした指導体制と授業、教育現場における実地研究を整備しました。教育に関わる「高度な専門性」を備えた教員の養成を目指しますが、個々の能力を高める「高度化」ととどまらず、「専門性」の垣根を越えて、「複雑な問題状況に対応し関係性を編みなおす『協働化』」も見据えた教員の養成を目指します。

《 埼玉大学教職大学院がめざす教師像 》

かかわり、考え、つながり、問い直しつつける教師

- 1 | 子どもの学びと育ちを支える教師 *teacher as caring profession*
(具体的な状況のなかでの子どもの学びと育ちを支えるために)
- 2 | 省察的実践家としての教師 *teacher as reflective practitioner*
(自分たちの教育実践を熟考、創造、省察してゆく過程で)
- 3 | 多様な人、場、知をつなぐ教師 *teacher as learning coordinator*
(多様な人や場や知とのつながりをうみだしながら)
- 4 | 教育の実践的研究者としての教師 *teacher as practical researcher*
(たえず教育の問題や意味を問い直しつつける教師)

1) 教育組織

本研究科では「プログラム制」を採用し、入学者がカリキュラムを選択し、多様な教育ニーズに対応するための柔軟な学び方ができるよう編成しました。

◆ 総合教育高度化プログラム

学校構想サブプログラム	学級づくり、授業づくり、学校づくり、学校と家庭や地域との連携構築をめぐる実践的な諸課題や、多文化・コミュニケーション・貧困・いじめ・不登校などの現代的諸課題に対して多角的・協働的な探求ができる教員、教育相談や学校コンサルテーションの高度な実践力をもつ教員の養成を目指します。
特別支援教育サブプログラム	特別支援教育を巡る現代的課題に対応できる高度な実践力を備えた教員を、院生の教職経験や専門性に応じて養成します。具体的には、①講義や演習を通して、国内外の特別支援教育の動向を、社会のあり方に関わる思想や政策、人の心理・行動の発達特性を解明する認知科学やそれに基づく教育実践等から多面的に理解すること、②教育現場での実地研究を通して、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する教育実践の組み立て方を、児童生徒を取り巻く環境や児童生徒の生活機能の点から多面的に理解すること、③①および②を統合し、特別支援教育のあり方を理論的、実践的な視点から思考する力を身につけることを目標とします。
学校保健サブプログラム	学校における保健管理、保健教育、学校保健組織活動についての現代的課題を探究するとともに、専門家として関わる養護教諭・保健主事の実践と役割を追求できる学校保健に関わる教員を養成します。
子ども共育サブプログラム	人、環境、社会に関する多様性と包摂を理念とする学校教育のあり方を探求し、地域の専門機関と連携した指導法の開発、幼児教育と小学校教育との接続と連携、夜間中学や定時制高校等での教育実践等について学び、子どもと共に成長できる教員を養成します。

◆ 教科教育高度化プログラム

10の教科に対応するサブプログラム(言語文化系、社会系、自然科学系、芸術系、身体文化系、生活創造系の6)を編成し、教科内容の高度な理解と指導力、カリキュラム・マネジメント力を持つ教員を養成します。

言語文化系教育サブプログラム	自然科学系教育サブプログラム	身体文化系教育サブプログラム
社会系教育サブプログラム	芸術系教育サブプログラム	生活創造系教育サブプログラム

2) 履修方法

下記修了要件に必要な教育課程の46単位以上を履修する必要があります。

◆ 共通科目

共通科目で取り扱う内容は下記5領域です。計16単位を履修します。

共通科目(5領域)	開講科目
教育課程編成	教育課程の課題探求(2単位)
教科指導	教科指導の課題探求(2単位)
生徒指導・教育相談	生徒指導・教育相談の課題探求(2単位)
学級経営・学校経営	教育経営の課題探求(2単位)
学校教育と教員の在り方	学校と教職の課題探求(4単位)



各プログラム(サブプログラム)ごとに開講される「共通科目4単位(※)」を履修すること。

※5領域のどれかに該当すること。

◆ 学校における実習科目(実地研究Ⅰ・Ⅱ)

1年次に実地研究Ⅰ(4単位)、2年次に実地研究Ⅱ(6単位)の計10単位を履修します。

◆ 課題研究

1年次に課題研究Ⅰ(2単位)、2年次に課題探求Ⅱ(2単位)の計4単位を履修します。

◆ 各プログラム基礎科目

各サブプログラムにおける基礎的な内容を必修または選択必修として6単位以上履修します。

◆ プログラム選択科目

「共通科目」「学校における実習科目」「課題研究」「プログラム基礎科目」と重複しないものを、解説科目の中から自由に選択し、10単位以上履修します。

3) 指導教員

学生の専攻分野の研究を指導する複数の指導教員は、学生が出願時に提出した「研究計画書」及び入学前に提出した指導教員希望調査書の内容に応じて、大学院を管理運営する研究科委員会が複数名を決定し、入学時のガイダンスの際に示されます。

4) 修了要件

2年(短期履修制度利用者は1年)以上在籍し、教育課程の46単位以上を修得したうえで、学位研究報告書の審査及び最終試験を経て、修了の認定を行います。

5) 学位

教職修士(専門職)

カリキュラムの構造

本研究科では、教育現場の経験や学部での学修を基盤に、高度な専門性に裏打ちされた理論と実践の融合型カリキュラムを編成しています。また、研究者教員と実務家教員とがタイアップした指導体制と授業、そして教育現場における実地研究を整備しています。

分類	共通科目(5領域)	実地研究I・II	課題研究I・II	サブプログラム科目	選択科目
単修了要件 単位配分	16単位以上	10単位 (短期履修制度を利用した者は4単位)	4単位	10単位	6単位以上
	46単位以上				
各科目の内容	<p>共通科目で取り扱う内容は「教育課程編成」「教科指導」「生徒指導・教育相談」「学級経営・学校経営」「学校教育と教員の在り方」の5領域です。</p> <p>このうち、</p> <p>「教育課程の課題探求」(2単位) 「教育経営の課題探求」(2単位) 「教科指導の課題探求」(2単位) 「生徒指導・教育相談の課題探求」(2単位) 「学校と教職の課題探求」(4単位)</p> <p>の計12単位は学生全員が必修となります。</p> <p>上記4授業に加え、各プログラム(サブプログラム)ごとに開講される「共通科目4単位(※)」を履修し、計16単位以上を履修する必要があります。 ※共通科目5領域のどれかに該当するもの</p>	<p>《実地研究I》</p> <p>児童生徒実態及び発達と理解と学校教育の全体構造とを関連づけ、学校教育における実践を深く理解することを目標としています。</p> <p>そのために、学校に出向き①教育課程、②校内体制、③指導計画の作成と学習指導、④行動特性の理解、⑤児童生徒支援の実践等についての基礎的な理解を図るための実地学習を行います。</p> <p>《実地研究II》</p> <p>学卒院生は、実地研究I及び課題探求により深めた学校教育に対する課題意識Iを基に、課題探求IIとの往還、連携協力校等での実践を通して、研究テーマに関する課題の解決策を立案する能力及び解決のための実践力を高めます。</p>	<p>《課題研究I》</p> <p>①教育課程、②教科指導、③生徒指導及び教育相談、④教育経営、⑤学校教育と教員の在り方について、実地研究Iでの幅広い実践経験の中から具体的な課題意識を明確化することを目標としています。指導教員との協議のもと、定期的に教育実践のリフレクションを行いながら、研究実践をまとめます。</p> <p>《課題研究II》</p> <p>課題研究Iを通して明確にした課題を解決する具体的な方策を立案し、実践を通してその検証を行うことを目標とします。学校教育現場での課題解決のための理論と技術を検証・実証し、課題研究報告書をまとめます。</p> <p>なお、特別支援教育サブプログラム、学校保健サブプログラムに所属する院生は、</p> <p>「課題研究I・II(特別支援教育)」 「課題研究I・II(学校保健)」</p> <p>を履修し、特別支援教育、学校保健に関わる実践力を高めます。</p>	<p>サブプログラムごとに設定した必修または選択必修の科目です。</p>	<p>左記の「サブプログラム科目10単位」以外の全サブプログラム科目及び「現代的・地域的教育課題の共同探求」から選択します。</p>
主な科目紹介	<p>「学校と教職の課題探求」</p> <p>共通科目で取り扱う領域のうち「学校教育と教員の在り方」に対応する科目です。</p> <p>この科目では、学校と社会に関する特定の現代的・地域的諸課題を設定し、各自が拘わる学校のなかでそれぞれの課題がどのように現れ、教師がどのように引き受け克服していくことができるかを共同的に探究します。</p> <p>さらにこの科目では、実地研究での学校の経験に基づいた省察と対話をふくむ「グループカンファレンス」を実施します。大学教員が協働して院生の実地研究に関する振り返りを定期的に行い、院生は自らの実地研究での経験、学び、課題の具体的事例をグループ内で討議します。この活動を通じて、院生は今後の実地研究で取り組むべき改善や工夫について明確な指針を得ながら、効果的な理論と実践との往還を実現していくのです。</p>	<p>現職院生は、2年次には勤務校において課題解決に向けて実践的に研究を継続する。学校課題の明確化とその分析を基に、実際に学校内外と協働して課題解決に取り組む力量や授業改善、また、様々な教育的ニーズに応じた適切な学習支援等を組織的にリードし、学校全体の授業力向上や学習支援等の充実を図る力量を養います。</p> <p>なお、特別支援教育サブプログラム、学校保健サブプログラムに所属する院生は、</p> <p>「実地研究(特別支援教育)」 「実地研究(学校保健)」</p> <p>を履修し、特別支援教育、学校保健に関わる実践力を高めます。</p>	<p>「課題研究I・II(特別支援教育)」 「課題研究I・II(学校保健)」</p> <p>を履修し、特別支援教育、学校保健に関わる実践力を高めます。</p>	<p>「学級づくり論」</p> <p>※学校構想サブプログラム科目</p> <p>教師のまなざしは子どもの自己形成にどのような作用を及ぼしているのか、教室を子どもたちが共に学ぶ場にしていくために教師はどのような実践的知恵を発揮しているのか、具体的な教育実践の事実在即しながら、今日した養う学級づくりの実践的知恵を臨床的かつ共同的に明らかにします。</p>	<p>「現代的・地域的教育課題の共同探求」</p> <p>この科目では、教育に関わる現代的かつ横断的な問題、地域の課題に関して多様なスタッフや院生が課題設定から成果公表の過程を協議し、グループでの研究を行います。</p> <p>学校を中心としてフィールドを歩き来しながら、問題を多角的に検討することや、エイジェンシー(機関)へのインタビューやそれに基づいたワークショップの開発を内容としています。</p> <p>研究内容は教職大学院フォーラムの場で公開する等、広く情報発信をするとともに研究への参加者の輪を広げていきます。</p>

現職教員等のための特例制度・特色ある取り組み

埼玉大学教育学研究科は、現職教員が「働きながら学ぶ」ことをサポートする体制を整えています。授業時間割、履修制度等を活用し、所属校で勤務しながら本学教育学研究科へ進学してください。

現職教員とは… 教員免許状を有し、初等中等教育において累計5年以上（令和2年4月1日の時点）の教職経験（臨時的任用・非常勤含む）があり、在職のまま教育学研究科に入学可能な者
 ※臨時的任用・非常勤の職にある者は、1週間あたりの勤務時間が12時間以上あること

学卒院生（ストレートマスター）とは…大学の学部を卒業した者

短期履修制度

教育現場で相応の経験を積んだ教員を対象に、1年で修了できるカリキュラムを新設しました。2年で修了する院生と同じプログラムに所属し、学卒院生（ストレートマスター）と授業等を通じて互いに高め合うことが可能です。
 ※修了必要単位46単位（うち「実地研究II」は教育現場での経験により、審査のうえで履修免除）
 ※正規職員としての教職経験5年以上が履修要件となります。

長期履修制度

長期履修制度とは、職業を有しているなどの理由により、標準の修業年限（2年）で修了が難しい場合、その修業年限を延長し、一定の期間（最長4年）内で計画的にカリキュラムを履修することにより、大学院の課程を修了することができるものです。長期履修学生は、期間にかかわらず、原則として標準の修業年限分の授業料を納める必要があります。在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定年度から新授業料が適用されます。

教育方法の特例措置

1年次は勤務校を離れ、昼間の授業を履修し、2年次は勤務校に復帰し、実地研究を行いながら研究をまとめることとなります。勤務の中で見出した課題を大学院の学習と往還させ、教育学研究科専任教員の指導のもとで、課題克服の方策を探求し、高度な実践力を獲得することができます。

学部授業科目の履修制度

教育学研究科の授業履修の妨げにならない範囲で、学部の授業科目を履修できる制度（学部聴講）があります。指導教員の許可があれば、学部聴講は半期3科目まで履修でき、授業料は徴収しません。この制度により、教員免許状に係る科目も履修することができ、入学前の既取得単位に上乘せして新たな教科等の免許状を取得できる場合もあります。

ただし下記制限事項があります。

- ・履修許可は学部生が優先となります。希望していても授業が履修できないこともあります。
 - ・本学卒業生以外は介護体験実習、教育実習を履修することはできません。
 - ・養護教諭免許、保育士免許を取得することはできません。
 - ・他免許取得を希望する場合は、あらかじめ学力に関する証明書を持参のうえ、勤務先の学校を管理する教育委員会へお問い合わせください（学卒院生は居住地の教育委員会）。
- ※本制度による履修に不明な点がある場合は、必ず出願まで下記連絡先まで問い合わせてください。

《連絡先》 教育学部係 048-858-3144

利用しやすい学修環境

埼玉大学図書館は、大学の休暇期間・土日祝日を除き9：00～21：30まで開館しています。ミーティングや討論ができる「ラーニングコモンズ」や、「グループ学習室」「セミナー室」などの学修スペースも夜間時間帯まで利用することができます。

取得できる免許状

教育学研究科において、教員免許状の所要資格を取得できる種類は下記表のとおりとなります。

また、出願の際には現在有する免許状の種類（1種・2種）を指定していませんが、2種免許のみを有する方は現在の単位取得状況によっては在籍期間内に専修免許状を取得できないことがあります。

プログラム名	サブプログラム名	種類	教科
総合教育高度化プログラム	学校構想サブプログラム	小学校教諭専修免許状	
		中学校教諭専修免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、英語
		高等学校教諭専修免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、福祉、英語
		幼稚園教諭専修免許状	
	特別支援教育サブプログラム	特別支援学校教諭専修免許状	知的障害者 肢体不自由者 病弱者
	学校保健サブプログラム	養護教諭専修免許状	
	子ども共育サブプログラム	小学校教諭専修免許状	
		中学校教諭専修免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、英語
		高等学校教諭専修免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、福祉、英語
		幼稚園教諭専修免許状	
言語文化系教育サブプログラム		小学校教諭専修免許状	
		中学校教諭専修免許状	国語、英語
	高等学校教諭専修免許状	国語、英語	
社会系教育サブプログラム	小学校教諭専修免許状		
	中学校教諭専修免許状	社会	
	高等学校教諭専修免許状	地理歴史、公民	
	自然科学系教育サブプログラム	小学校教諭専修免許状	
		中学校教諭専修免許状	数学、理科
		高等学校教諭専修免許状	数学、理科
芸術系教育サブプログラム	小学校教諭専修免許状		
	中学校教諭専修免許状	音楽、美術	
	高等学校教諭専修免許状	音楽、美術	
身体文化系教育サブプログラム	小学校教諭専修免許状		
	中学校教諭専修免許状	保健体育	
	高等学校教諭専修免許状	保健体育	
生活創造系教育サブプログラム	小学校教諭専修免許状		
	中学校教諭専修免許状	技術、家庭	
	高等学校教諭専修免許状	家庭	

教員研究分野一覧

プログラム名	サブプログラム名	職名・氏名	サブプログラム科目一覧	研究分野	
総合教育高度化プログラム	学校構想 サブプログラム	教授 澤崎 俊之	学級づくり論	学校臨床心理学(アサーション)	
		教授 馬場 久志	学校と社会論	教授学習心理学 学校心理学	
		教授 堀田 香織	学校と児童生徒理解の心理学	発達臨床心理学 家族と学校	
		教授 船橋 一男	学校臨床心理学実践演習	生活指導・子ども研究	
		教授 岩川 直樹	心理学的方法の活用と探求	学習臨床 人権教育	
		教授 宇佐見 香代	カウンセリング実践演習	生活科・総合学習	
		准教授 萩生田 伸子	心理・学習評価演習	教育評価・心理データ解析	
		准教授 椋田 容世	総合・道徳開発演習	臨床心理学	
		准教授 磯田 三津子	教育工学開発演習	在日外国人児童生徒教育 国際理解教育	
		准教授 野村 泰朗		教育工学 情報教育	
	特別支援教育 サブプログラム	教授 葉石 光一	発達臨床アセスメント演習 特別支援教育実践研究	障害児心理・生理・病理学	
		教授 名越 斉子	障害児心理学の実践と課題A	障害児心理学・指導法	
		准教授 宗澤 忠雄	インクルーシブ教育演習	障害者福祉学	
		准教授 山中 冴子	障害児心理学の実践と課題B 障害児教育実践の課題探求法	特別支援教育学	
	学校保健 サブプログラム	教授 戸部 秀之	学校保健の理論と実践の探求	学校保健学・健康教育学	
		教授 関 由起子	保健教育の実践と課題の探求	看護学・救急処置	
		准教授 齊藤 千景	保健管理の実践と課題の探求	養護学	
		准教授 七木田 文彦	養護教諭の専門家としての成長	保健教育	
		准教授 西尾 尚美	教育生理の臨床と子供の成長課題	解剖生理学・免疫学・栄養学	
	子ども共育 サブプログラム	教授 安藤 聡彦		環境教育・社会教育	
		教授 田代 美江子		ジェンダー教育学	
		教授 庄司 康生	子どもの発達と教育相談の課題探求	乳幼児教育学(表現)	
		教授 首藤 敏元	<教育-社会-環境>基礎論	乳幼児心理学	
		准教授 北田 佳子	子ども認識の思想と構造	教師教育・授業研究	
		准教授 山田 恵吾	保育内容と指導の課題探求	日本教育史	
		准教授 高橋 哲	子育て支援開発探求	教育政策と法	
		准教授 福島 賢二	幼児の音楽表現の開発探求	<教育と社会>学	
		准教授 寺園 さおり		小児保健学	
		准教授 小田倉 泉		乳幼児教育学	
		准教授 三橋 さゆり		乳幼児音楽学	
	教科教育高度化プログラム	言語文化系教育 サブプログラム	教授 薄井 俊二	漢文学(中国哲学史)	漢文学(中国哲学史)
			教授 戸田 功	言語文化系教育の理論と実践A(国語)	国語教育学(国語教育)
			教授 飯泉 健司	言語文化系教育の授業内容探求A・B(国語)	国文学(古代文学)
			准教授 山本 良	言語文化系教育の教材開発と実践A・B(国語)	国文学(近代文学)
			准教授 本橋 幸康		国語教育学(国語教育史)
			准教授 池上 尚		国語学(日本語学)
社会系教育 サブプログラム		教授 武田 ちあき	言語文化系教育の理論と実践B(英語)	英語文学(英語圏小説)	
		教授 及川 賢	言語文化系教育の授業内容探求C・D(英語)	英語教育学(英語授業論)	
		准教授 田子内 健介	言語文化系教育の教材開発と実践C・D(英語)	英語学(文法理論)	
		教授 大友 秀明(※)		社会科教育学(公民教育)	
		教授 小林 聡		東洋史学(中国魏晋南北朝史・隋唐史)	
		教授 桐谷 正信		社会科教育学	
教科教育高度化プログラム		教授 田村 均	社会科教育の理論と実践A・B	歴史地理学・地域史	
		教授 谷 謙二	社会科教育の授業内容探求	人文地理学(都市地理学・GIS)	
		准教授 清水 亮	社会科教育の教材研究と実践A・B	日本史学(日本中世史)	
		准教授 高橋 雅也		社会学(地域社会学)	
		准教授 中川 律		法学(憲法学・教育法学)	
		准教授 宮崎 文典		倫理学(古代ギリシア倫理学)	

プログラム名	サブプログラム名	職名・氏名	サブプログラム科目一覧	研究分野
教科教育高度化プログラム	自然科学系教育 サブプログラム	教授 道工 勇(※)		統計学(確率統計学)
		教授 二宮 裕之	自然科学系教育の理論と実践A(算数・数学)	数学教育学(表現論・評価論)
		教授 飛田 明彦	自然科学系教育の授業内容探求A・B(算数・数学)	代数学(群論)
		准教授 松崎 昭雄	自然科学系教育の教材研究と実践A・B(算数・数学)	数学教育学(モデリング)
		准教授 西澤 由輔		解析学(不等式・力学系)
		教授 金子 康子		生物学(植物細胞生物学)
		教授 近藤 一史		物理学(物性物理学・物理教育)
		教授 富岡 寛顕		化学(有機化学)
		教授 岡本 和明		地学(地質学・岩石学)
		教授 小倉 康	自然科学系教育の理論と実践B(理科)	理科教育学(理科教育方法学)
		教授 大向 隆三	自然科学系教育の授業内容探求C・D(理科)	物理学(レーザー分光学)
		准教授 松岡 圭介	中核的理科教員(CST)養成講座	化学(物理化学)
		准教授 日比野 拓		生物学(発生生理学)
		准教授 大朝 由美子		地学(天文学・気象学)
	准教授 中島 雅子		理科教育学(学力論・評価論)	
	芸術系教育 サブプログラム	教授 蛭多 令子	芸術系教育の理論と実践A(音楽)	器楽(ピアノ)
		教授 竹澤 栄祐	芸術系教育の授業内容探求A・B(音楽)	器楽(フルート・指揮法)
		准教授 小野 和彦	芸術系教育の教材研究と実践A・B(音楽)	声楽
		准教授 森 薫		音楽科教育学・音楽学習論
		教授 横尾 哲生(※)		工芸(木工芸)
		教授 池内 慈朗	芸術系教育の理論と実践B(図工・美術)	美術教育学、美術理論・美術史
	身体文化系教育 サブプログラム	教授 小澤 基弘	芸術系教育の授業内容探求C・D(図工・美術)	絵画(油彩・アクリル)
		教授 高須賀 昌志	芸術系教育の教材研究と実践C・D(図工・美術)	デザイン
		准教授 石上 城行		彫刻
		准教授 内田 裕子		美術科教育学
		教授 有川 秀之	体育・保健体育科教育の授業内容・指導法探求	運動学、陸上競技
		教授 細川 江利子	体育・保健体育科教育の理論と実践A・B	舞踊学、ダンス
	生活創造系教育 サブプログラム	准教授 石川 泰成	体育・保健体育科教育の教材研究と実践A・B	体育科教育学
		准教授 松本 真		スポーツ哲学、バスケットボール
		准教授 菊原 伸郎		コーチ学、サッカー
		准教授 古田 久		運動心理学、バレーボール
		教授 山本 利一	技術科教育の理論と実践	技術教育(教材開発)
		教授 浅田 茂裕	技術科教育の授業内容探求A・B	木材加工(木質環境)
		准教授 内海 能重	技術科教育の教材研究と実践A・B	機械(塑性加工)
		准教授 荻窪 光慈		電気(電子回路)
		准教授 荒木 祐二		栽培(農地生態)
教授 川端 博子			被服学	
教授 河村 美穂			家庭科教育学	
教授 吉川 はる奈		家庭科教育の理論と実践	保育学、子育て支援	
教授 重川 純子		家庭科教育の授業内容探求A・B	家庭経営学	
准教授 亀崎 美苗		家庭科教育の教材研究と実践A・B	住居学	
准教授 島田 玲子		食物学		
准教授 上野 茂昭		食物学		
教育実践総合センター (教職の実務経験を基に、共通 科目の教職及び教育実践に係 る内容を担当)		職名・氏名	共通科目一覧	研究分野
	教授 櫻井 康博(※)		教育課程の課題探求	特別支援教育学
	教授 安原 輝彦		教科指導の課題探求	教師教育学
	教授 石田 耕一		生徒指導・教育相談の課題探求	教師教育学
	教授 長江 清和		学校と教職の課題探求	特別支援教育学
	准教授 山口 美保(※)		学校課題改善演習	教師教育学
准教授 大沢 裕			教師教育学	

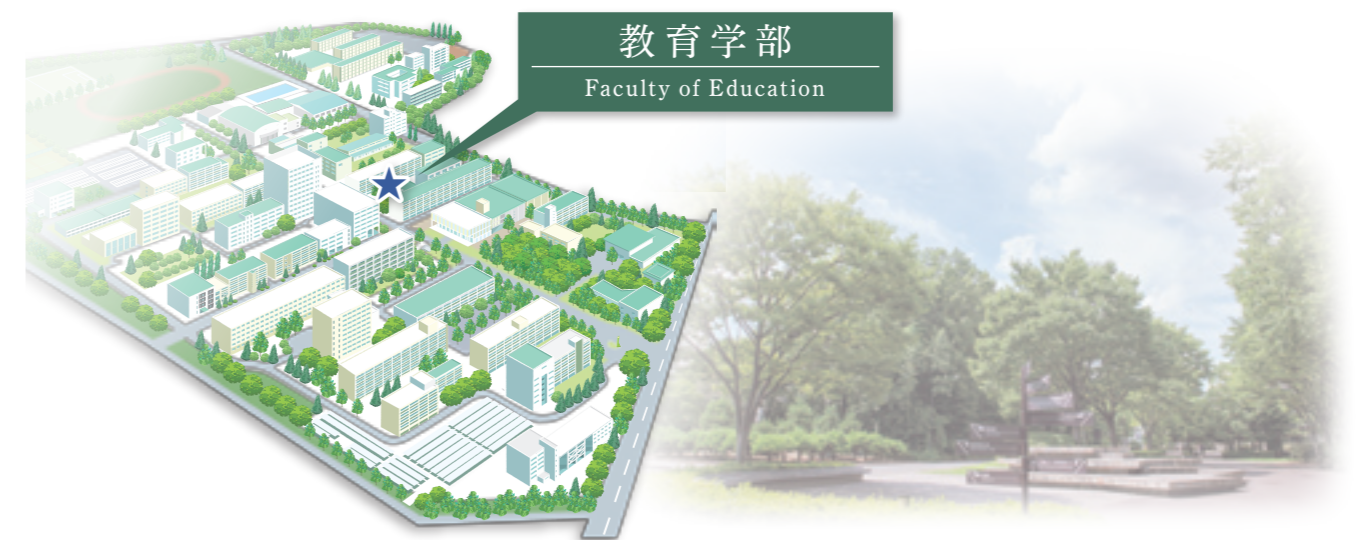
※令和3年3月退職予定者

過去研究テーマ一覧

- 即興で伝え合う力の向上を目指した授業の考察 -英語授業での「話すこと」の教育効果について-
- 学力向上を目指した小中一貫教育の研究
-小、中教員が相互理解を深め、児童生徒の学力の伸びを省察することを通して-
- 生徒の自己肯定感が高まる数学の授業実践に関する研究
- 生徒の多面的・多角的に考察する力を育む社会科授業の在り方
-「立場」・「対話」・「価値判断」を重視した探究的な社会科学習-
- 「考え・議論する」道徳の授業づくりの工夫 -考えを深めるための活動としての話し合い活動と問いの一考察-
- 技術教育における教育の情報化に対応した指導法の実践的研究
-双方向性のコンテンツのプログラミングとデジタルファブリケーションの活用-
- 学級担任が指導しやすい小学校外国語・外国語活動の授業展開と効率的な職員研修の研究
-帯活動を活用した授業展開の方法と指導力・英語力向上をねらった職員研修の研究-
- キャリア教育を充実させる教育課程の実現に向けた課題と協働体制の構築に関する研究
- 情報セキュリティに関するe-Learningコンテンツの開発と評価
- 子どもの自己形成とクラスの関係形成の連関について
- 認知科学的アプローチによる教科横断型授業の設計 -国語科と他教科をつなぐ-
- 業務の偏りを改善し、教員が力を発揮する学校づくり
-「校務分掌別業務集中中期一覧表」の作成・活用を通して-
- 理科における協同的・探求的な学びの実践的探求
- 児童の自己指導能力の育成を目指した若手教員の指導力向上に関する研究
-「PMメソッド」及び「Q-U」の分析を通して-
- 聴き合い、学び合う子ども達を育む教育実践研究 -子どもの学びの事実から学ぶ授業づくり・学級づくり-
- 中学校の基本的自尊感情を育む理論的手法 -学級集団づくりの視点から-
- 小学校における自尊感情を高めるための人権教育の模索 -人権感覚の学びを促進する環境づくりに着目して-
- 通常学級における特別支援教育の必要性 -学年主任・特別支援教育コーディネーターの立場から-
- 応用行動分析学を用いた子どもへの支援方法 -児童生徒の行動理解に向けて-
- 通常学級における学級経営のユニバーサルデザインについて -「学級づくりの7原則」の提案-
- 教科別の指導と各教科等を合わせた指導の関連に関する一考察 -体育的要素を含む指導に着目して-
- 通常の学級における個に応じた教育実践の研究 -特別支援教育の視点をふまえた指導-
- 学校コンサルテーションから考えるセンター的機能のあり方
-地域の主体的課題解決力向上と校内支援体制の構築を目指して-

埼玉大学アクセスマップ

Saitama University Access Map





埼玉大学大学院 教育学研究科 教職大学院

教育学部係

Tel 048-858-3144

〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255

教職大学院HP

<http://kyoshoku.edu.saitama-u.ac.jp/>